

第1回 表彰式



第1回「日本医師会 赤ひげ大賞」の表彰式は3月22日、皇太子さまご臨席のもと、東京・内幸町の帝国ホテルで開かれた。

皇太子さまは「受賞された方々は、地域にとってなくてはならない存在であると聞いています。長年の努力と取り組みの成果に心から敬意を表します」とお言葉を述べられた。

続いて、日本医師会の横倉義武会長、産経新聞社の熊坂隆光社長から5人の受賞者に表彰状や記念品が手渡され、受賞者代表として挨拶した中野俊彦医師は「患者が安心して生活できる医療を続けてきたことを評価していただき嬉しく思います」と喜びを語った。

表彰式後に開かれたレセプションでは、皇太子さまが受賞者一人一人とにこやかに歓談されたほか、特別協賛であるジャパンワクチンの長野明社長らがお祝いのスピーチを行うなど、会場は終始なごやかな雰囲気にも包まれた。

● 第 1 回 表彰式



皇太子殿下 お言葉

長年にわたり地域医療の担い手として活躍されてきた医師の方々の功績をたたえて表彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」の第1回表彰式に皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

この赤ひげ大賞は、日本の医療制度の中で住民に最も近い存在として重要な役割を果たしている地域医療の現場において、各地域での様々な特徴のある取り組みが行われている現状に光を当てるとともに、地域医療の発展に貢献することを期待して、設立されたと伺っております。

日本の各地域の医療現場には、様々な特徴や課題があります。高齢化が急速に進んでいる地域、病院や診療所などが無くなり医師が全くいない地域、さらには都市部においても、様々な理

由から地域医療を支える病院が撤退していくケースがあると聞いています。この度受賞された方々は、このような厳しい状況の下で、地域住民の生活に寄り添い、治療だけでなく地域住民の健康管理などに尽力されるなど、その地域にとってなくてはならない存在であると聞いています。

ここに、受賞される方々の長年の努力と取り組みの成果に対し心から敬意を表します。

近年、我が国は高齢化が急速に進み、国民の医療に対する期待がますます大きくなっています。特に地域医療の充実は、住み慣れた地域で安心して暮らしたいと願う人々にとって必要不可欠なものと言えるでしょう。

今回「日本医師会 赤ひげ大賞」が設立されたことが、各地で人々の健康管理や診療を親身になって行っている医師の方々の大きな励みとなり、地域医療の更なる発展につながることを期待するとともに、この賞が末永く発展していくことを心から願い、私の挨拶といたします。

● 第1回 表彰式



厚生労働大臣 祝辞

第1回「日本医師会 赤ひげ大賞」の表彰式に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、本日栄えある表彰を受けられる五名の皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

本日受賞される皆様は、地域医療の現場において、住民が安心して生活をおくれるようなまちづくりに寄り添った活動を長年にわたって行われてきました。これまで、それぞれの地域で住民の健康が守られてきたのは、在宅医療や住民の健康管理など、まさに皆様の地道で継続的な活動があったからにほかなりません。改めて皆様の日頃のご努力に深く敬意を表します。

近年、急速な少子高齢化の進展などにより、我が国の医療を取り巻く環境

は大きく変化し、様々な課題に直面しています。

このような中、厚生労働省では、質の高い医療サービスが適切に受けられる体制を構築し、全ての国民が健康で、安心して生活を送ることができる社会となるよう、全力を挙げて取り組んでいるところですが、その実現のためには、皆様のような地域医療の第一線で活躍される、全国の「赤ひげ」の皆様のご協力が不可欠です。

皆様には、地域医療の発展のため、今後ともなお一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

今回、地域医療の現場で活躍される医師に光をあてるため、本事業を創設された日本医師会、産経新聞社をはじめとする関係者の皆様に敬意を表するとともに、「日本医師会 赤ひげ大賞」の一層の発展、本日お集まりの皆様のますますのご健勝を祈念して、私の挨拶といたします。

厚生労働大臣 田村憲久
厚生労働事務次官 金子順一 代読

● 第1回 表彰式



皇太子さまのご臨席のもと、多くの関係者が出席し盛会の表彰式



レセプションで受賞者と歓談される皇太子さま



横倉日本医師会会長、熊坂産経新聞社社長が、各受賞者を表彰



受賞者それぞれが、この賞を励みに、今後の地域での活躍を誓う



受賞者代表の中野俊彦医師は、地域医療が評価された喜びを語った



選考委員の山田邦子さんは、自身の治療体験を基に挨拶した